



飯山 桜の広場

(撮影：小林会員)

令和 7 年 4 月号 Vol. 252
(2025 年)

発行：令和 7 年 4 月 6 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

《不動尻ミツマタ観賞客 広沢寺前駐車場・他臨時駐車場での案内》

行事区分：行事支援

日 付：3 月 15 日（土）、（3 月 16 日（日）は雨天中止）

3 月 20 日（木・春分の日）、3 月 22 日（土）、3 月 23 日（日）

時 間：7:00～12:00

場 所：広沢寺前駐車場・臨時駐車場

参 加 者：延べ 20 名

（20 日）

春分の日、前日の大変なみぞれ吹雪のため足元も悪いのではと心配しました。しかし快晴に恵まれ想像以上に残雪もなく快適な環境でした。広沢寺の駐車場は朝 7 時頃から会場準備を開始し、不動尻ミツマタ観賞や鐘ヶ嶽登山者の車両で、9 時半頃には 3 ヶ所の指定場所の全てが満車になりました。

車両ナンバーは遠隔地の静岡や富士山・大宮をはじめ横浜・川崎・湘南・世田谷などが多く、相模ナンバーは 20%程度でした。「和（なごみ）の丘」臨時駐車場前を、バスで来られた女性の多い 30 余名の鐘ヶ嶽登山グループなどが通過していききました。駐車場不足を考慮して七沢バス停留所近くにも 15 台程度の場所を確保して頂きましたが、使用せずに済みました。全場所 11 時 30 分に撤収を開始し 12 時に予定通り終了して解散しました。

（高橋 記）



（22 日）

3 月になってから大山は雪が降り、彼岸に入ってから雪で、今日も大山の谷筋には雪が見えています。不動尻は寒く、初日の 15 日はまだミツマタは 4 分咲きほどでしたが、今日は天気が良く暖くなり、満開が期待できます。予想どおり、7 時に駐車場に着くと既に下段の奥列、入口付近は駐車状態でした。広沢寺駐車場の利用時間は 8 時～日没とありますが、毎年来ている人は早いです。8 時近くになると車は次々と到着し、広沢寺駐車場は 9 時には上段も満車となりました。案内した臨時の「ますや」駐車場、「和の丘」駐車場

も 10 時には満車となってしまう、今日は「アトラクトこえち」の臨時駐車場も案内しました。

広沢寺温泉 8 時 36 分着のバスが到着。こんなに人が乗っていたのかと思うほどお客様が降りて来ます。トイレも長い行列が出来ています。いつもの広沢寺駐車場と違う光景に圧倒されます。駐車場の案内も 4 年目となり、スムーズに案内出来、お客様は礼儀正しく混乱はありません。困ったのは里山清掃グループの車が、臨時駐車場が満車となってしまった時に来られ、やりくりして駐車できて良かったです。

駐車ナンバープレートを見ると 90%が市外、他県ナンバーです。11 時頃からは駐車場待ちの車の列が出来ました。7 時前からここを出発したお客様も、今日は天気が良く、



皆さんゆっくり散策しているようで、なかなか帰ってきません。11 時半頃からパラパラとお戻りになりました。お客様にミツマタの状況を聞くと 8 部咲きとのことでした。

初めてミツマタの群生を見に来た人は、とても綺麗だったと感激していました。別の数名からは、「毎年来ているけど、荒れちゃったね。枯れているのもあるし、残念」と言われました。それは昨年私も感じました。斜面を登り最上段の登山道に出るまでミツマタのトンネルになっていたはずが、トンネルが無いのです。いっしょに咲いていた櫛（しきみ）も無く残念に思ったのでした。

観光地として宣伝し、駐車場の案内をしなくてはならなくなったほど知られるようになり、多くの観光客が来るようになったのは嬉しいですが、やはり人が多く入ると荒れてしまいます。これからは、貴重な観光資源としての自然、ミツマタ群生の保護、再生活動も必要になってきたと思います。来年も綺麗なミツマタ群生を見てほしいです。今日は、駐車場待ちが無くなった 12 時半終了となりました。お疲れ様でした。（菅谷 記）

《 八菅神社火渡り神事と八菅山・鳶尾山ハイキング 》

行事区分： 企画ガイド（ハイキング）

日 時： 3 月 28 日（金）9：40～15：35

場 所： 荻野公民館上荻野分室～歌川国経墓所・田尻集落道祖神～八菅山いこいの森（昼食）～八菅神社・火渡り神事～鳶尾山～小鳶尾山～金毘羅社～天覧台公園

参 加 者： 一般 9 名、会員 7 名

この日の朝は豪雨。傘をさして合羽を着こみ、家を出ましたが、9 時には雨もやみ、集合時には雨後の澄んだ空気の中、日に照らされ鮮やかな緑の大山、そして相州アルプスの山々を臨み、すがすがしい光景が広がっていました。

今回は 25 名の募集人数に対し、32 名の応募があり、火渡り神事への関心の高さがうかがえる人気企画となりましたが、早朝の悪天候が影響し、キャンセルが続出。お客様は 9 名と残念



なこととなりましたが、悪天候の中、来ていただいたお客様に 1 日楽しんでいただこうとスタッフ一同決意を新たに出発しました。

桜の開花に間に合うか心配していましたが、中津川カントリーの登り坂にかかると桜が開花していて、お客さまも喜んでくださり、ほっと胸をなでおろしました。この後いたるところで桜に出会う花のハイキングとなりました。

カントリークラブを過ぎ、丘の上に登ると大山、丹沢、相州アルプスの山並みが間近に一望でき、特に宮ヶ瀬ダムが近くに見えることにお客様もびっくりしていました。

八菅いこいの森から愛川町、町田、横浜方面の眺望を楽しみ、お花見広場で昼食。



正午、山伏たちの出発の花火が上がり、火渡り神事が始まります。

12 時 10 分予定どおり、定時に 1 班から出発。予定では八菅山いこいの森と火渡り神事の説明を行ってから神事見学でしたが、1 班がいこいの森の説明を始めてもお客様は心ここにあらず、それもそのはず、すぐ傍の境内から人の声が聞こえ、下の方からはほら貝の音も。少し遅れてきた 2 班は臨機応変に説明抜きで会場へ、1 班も説明を切り上げ、会場へ。2 班は神事見学後に八菅神社から 1 班が出発した後、時間差をつけるための待機時間を利用してこの説明を行ったそうです。次回はこの経験を活かし、円滑に行ないたいと思います。

会場へ行くとすぐ山伏が入場し、山伏問答、斧作法、宝弓法、宝剣法と古式ゆかしい儀式が進みます。そして積み上げられしめ縄を張った杉の葉に山伏が火をつけ、炎が高く上がると神事は最高潮に達します。火を分けて道をつくり、紫の衣を着た山伏が刀を抜き、炎の上を歩いて渡ります。

そして、燃えている木を脇に寄せ道を作り、参詣人の火渡りです。会員もお客様も皆裸足になり、火渡りを体験しました。これで 1 年間無病息災だそうです。

八菅神社を出て、鳶尾山へ進み、桜咲く中、山頂から中津川、相模平野の眺めを堪能しました。

朝の出発時に早朝の豪雨で山道が滑りやすくなっていたら、安全のため、ここから先の急坂を避け、やなみ峠に引き返し、まつかげ台から帰るコースを考えていましたが、山道は乾いていて小鳶尾の展望台からの遮るもののない雄大な景色を満喫し、解散地の天覧台まで予定どおり無事に着くことができました。少人数のお客様と会話を楽しみながら 1 日を送ることができ、古式ゆかしい神事と好天に恵まれた桜咲く山道のハイキングにお客様もご満足いただけたと思います。

今回悪天候等でキャンセルされたお客様にも、次の機会にはぜひご覧いただければと思います。

(清田 邦男 記)



《 飯山観音の春日灯籠 》

澤田 正弘

飯山観音には約60基の春日灯籠が設置されています。この春日灯籠について、鐘楼の近くにある記念碑には次のように刻まれています。

「当山境内及び参道に建立されています石灯籠は観音堂屋根葺替工事資金調達の一事業として協力を頂いたものであります。ここにご奉納各家のご繁栄を心よりご祈念申し上げます。合掌 平成元年十一月三日 現住 隆応 代」とあります。



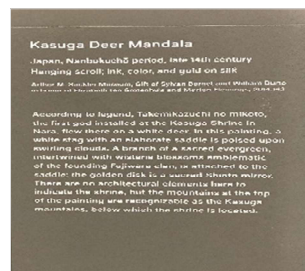
春日灯籠の構造は上から 1) 宝珠（ほうじゅ）、2) 笠（かさ）、3) 火袋（ひぶくろ）、4) 中台（ちゅうだい）、5) 竿（さお）、6) 基壇（きだん）からなっています。そして笠、火袋、中台は六角平面になっています。

火袋は正面（南側）と後面（北側）に火口（火を燃やすための開口）、正面左側に神鹿（しんろく）、その後横に雲、正面右側に透かしの格子と波、その後横に三笠山が彫ってあります。ちなみに鎌倉八幡宮の境内や若宮大路（長さ 1.8 Km）に設置されている春日灯籠は笠、火袋、中台が四角平面になっています。

春日灯籠という名前は奈良の春日大社の回廊の釣灯籠や社殿の石灯籠として多数設置されていることからこの名前がついたと言われています。また春日灯籠が世に広がり、さまざまな手の込んだ彫刻がなされ、必ずしも神鹿、三笠山の彫刻がされていない春日灯籠もある様です。

710 年（和銅 3 年）に奈良時代が始まり、平城京（中国長安に似せて造った）の守護と国民の繁栄を祈願するために、春日山原生林を背景に奈良公園の中に768 年（神護景雲 2 年）に春日大社が創建されたと伝わります。祭神として鹿島神宮（茨城県）の祭神である武甕槌神（タケミカズチノカミ）を春日大社の祭神としてお迎えすることになりました。武甕槌神は鹿島神宮から雲の上の神鹿に乗って春日大社へ移動したと伝わります。神鹿の背には鞍（くら）が据えられています。長いながい旅だったようです。

その雲に乗った白い神鹿は「春日鹿曼荼羅（まんだら）図」として、奈良国立博物館等で所有されているようです。昨年 11 月にボストン市内観光に行った時、ハーバード大学附属美術館内に春日鹿曼陀羅図の掛け軸が展示されていたので、係員に了解をとり写真を撮ってきました。英語で掛け軸の説明が書いてありました。



奈良公園の鹿はこの神鹿の子孫だと伝えられており、神の使いとして古くから手厚く保護されてきました。現在は境内や奈良公園などに 1325 頭の野生のニホンジカが生息しているそうです。1957 年に「奈良のシカ」として国の天然記念物に指定されています。



神 鹿



雲



格子と波



三笠山

最 近 の 活 動

日 付	場 所	内 容	参 加 者
3 月 8 日	アミューあつぎ	定 例 会	会員 18 名
3 月 15 日、20 日、22 日、23 日	七沢観光協会駐車場	ミツマタ観う賞観光客への案内	会員 延べ 20 名
3 月 28 日	八菅山～鳶尾山	企画ガイド 「八菅山火渡り神事とハイキング」	会員 7 名
3 月 30 日	飯山	飯山桜まつり支援	会員 3 名
3 月 30 日	飯山	文化財一般公開「金剛寺」ガイド	会員 3 名
4 月 1 日	相川公民館	編集会議	会員 2 名

編 集 後 記

八菅山の中央には、郷社「八菅神社」が鎮座しています。明治の初めまでは「八菅権現光勝寺」という多数の伽藍を具備した寺であったそうです。また八菅山修験者の祈禱は霊験あらたかとの世評高く、遠路勝浦や千葉のあたりからも老若男女が訪れたそうです。3 月 28 日に行われたハイキングでは、前日からの悪天候の関係で参加予定者 32 名から 9 名に減ってしまいましたが、伝統ある「火渡り神事」への参加体験が出来て良かったと思います。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男